

令和5年度の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>①社会の動向や教育界の動きを視野に入れて、時代に対応した教育活動を展開する。 ・普通コース及び国際理解コースの教育内容の一層の充実に努め、グローバル化、情報化などの社会の変化に主体的に対応する能力を育成する。 ・地域の人的・物的資源等を活用し、キャリア教育の充実と職業観の育成を図る。 ・生徒用タブレット等の活用を推進し、生徒の主体的で協働的な学びの充実に努める。 ・持続可能な開発目標であるSDGsの視点を踏まえた学びをより一層推進する。 ・学校図書館の活用を通して、主体的、意欲的な読書活動の充実に努める。</p> <p>②行動力と思いやりを備えた、地域を支えるリーダーとなる生徒を育てる。 ・学校行事、部活動やボランティア活動への積極参加を促し、統率力、協調性、粘り強さ、社会性を備えた人間力豊かな生徒を育てる。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導方法の工夫改善に努める。 ・実践的な防災・減災教育に取り組むとともに学校や地域の防災力に貢献できる防災リーダーの育成に努める。</p> <p>③清潔で落ち着いた教育環境、安全・安心な学習支援体制を整備し、規律を守る品位・品格ある心身ともに健康な生徒を育てる。 ・自他の生命尊重の理念のもと、交通安全意識と交通マナーの向上に努めるとともに、他の人々や地域の安全に貢献できる生徒を育てる。 ・教育相談の充実に努めるとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り組織的かつ迅速に適切な指導及び支援を行う。 ・日常の清掃活動を通して高い衛生・環境意識を醸成する。</p> <p>④効率的・効果的な業務遂行の機運を醸成し、教職員の多忙化解消を図る。 ・校務支援システムの活用を一層推進するとともに、情報共有や連絡調整に係る手段をデジタル化するなど、ICTを活用した校務効率化に努める。 ・学習や部活動における生徒の主体性を生かし、運営方針を遵守した部活動指導を行い、教職員の業務内容にメリハリを持たせる。</p> <p>⑤時間外労働の上限の目安時間を次のように定める。 ・1か月の在校等時間について、時間外労働45時間以内とする。 ・1年間の在校等時間について、時間外労働360時間以内とする。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>広報活動 (総務部)</p>	<p>P T A 活動の活性化</p>	<p>・P T A 理事会における講演会の充実に努める。 ・広報活動を通して、保護者への情報提供を充実させる。</p>	<p>・保護者の多様な興味・関心に応えるような講演会の企画・立案や情報提供をする。</p>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>担任業務の軽減、紙媒体の使用削減のための新学習支援システムの有効活用の研究</p>	<p>・新学習支援システム(スクールエンジン)を積極的に活用し、業務軽減を図る。</p>	<p>・教務だけでなく、各教科、各分掌ごと積極的に新システムを動かすことで学校全体で有効的に使用できるよう努める。</p>
<p>読書指導 (図書部)</p>	<p>学校図書館の活用による主体的、意欲的な読書活動の充実</p>	<p>・課題や調べもの学習等での図書資料の活用 ・自己の知的好奇心や興味を深めるための読書活動</p>	<p>・学年会などと連携をとりながら「総合的な探究の時間」、「HR活動」を通じて図書に触れてもらう機会をつくる。 ・教養や視野を広めるための楽しい読書活動を勧める。</p>
<p>研修 (研修部)</p>	<p>生徒用タブレットP Cの効果的な活用方法の研究 国際理解コースの活性化と外部への魅力発信</p>	<p>・生徒用タブレットP C等のI C T 機器について、効果的な活用方法を考える。 ・国際理解コースの行事検討と、国際理解コースだより以外の広報方法を探る。</p>	<p>・プロジェクター等、I C T 機器の使いやすい環境を整える。 ・本校におけるタブレットの活用事例を全職員で共有し、互いに教えあうことで実践の敷居を下げる。 ・国際交流に関して外部機関との連携を更に図る。</p>
<p>生徒指導 (生徒指導部 生活担当)</p>	<p>交通事故の防止と、より一段高い交通安全意識の啓発</p>	<p>・交通安全指導の実施 ・危険個所での指導の徹底 ・交通安全講話等による啓発</p>	<p>・交通安全県民運動の期間の交差点等での指導とともに学期当初に重点的な安全指導を実施する。 ・交通安全講話における啓発活動</p>
<p>生徒指導 (いじめ対策委員会)</p>	<p>いじめの未然防止と早期発見</p>	<p>・学校生活アンケート、相談アンケート、学期始めの担任による面接等を行う。</p>	<p>・アンケートの実施と担任面接や日常の観察により未然防止と早期発見に努める。</p>
<p>生徒会活動 (生徒指導部 特活担当)</p>	<p>生徒会行事の内容検討と生徒会活動の活性化</p>	<p>・生徒会行事の内容検討と綿密な計画 ・生徒会活動の活性化</p>	<p>・企画、準備、練習、本番の各段階で達成感や充実感を味わうことができる環境づくりに努める。</p>
<p>進路指導 (進路指導部)</p>	<p>高大連携事業の充実と生徒の進路目標の実現</p>	<p>・高大連携事業の定着及び充実を図る。 ・具体的かつ正確な大学に関する情報を提供する。 ・各学年、時期に応じた進路指導を学年団と進路部で連携して行う。</p>	<p>・ここ数年コロナ禍で実施できなかった高大連携事業やキャリア教育を再開し、より多くの生徒が将来の進路に向け主体的に取り組むことができるようにする。 ・進路相談の体制を充実させるとともに、生徒への情報提供を積極的に行う。</p>

保健活動 教育相談 (保健環境部)	こころとからだの 健康保持増進	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら熱中症予防及びけがの予防につながる行動選択をとることができる生徒を育成する。 ・性教育の健康講座を実施する。 ・ストレスマネジメントを活用したセルフコントロールのできる生徒を育成する。 ・被災時における救急法を学ばせ、地域の防災リーダーを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動代表生徒等にAED講習及び熱中症予防講習を実施し、緊急時に対応できるように指導する。 ・産婦人科医による「性教育」及び「ライフスキル教育」を通して、生涯にわたる健康教育を行う。 ・各学年ごと生徒の個別情報を把握し、状況に応じてスクールカウンセラーへつなげるなど、早期に対応できる相談体制の充実を図る。 ・市の担当者による「大規模災害時の医療体制と健康」をテーマとした学習を通して、防災教育を行う。 ・生徒保健員会の活動の中で救急法の講習を行い、被災時に対応できる知識と技能が習得できるよう指導する。
1年学年会	東高生としての自覚を持たせ、学習・部活動・行事に積極的に取り組む姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・学習と部活動の両立 ・進路意識の向上 ・自発的な行動の促進 ・良好な人間関係の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・東高生としての品位、時間やマナー・ルールを守る姿勢、奉仕の精神を養う。 ・明るく元気な挨拶をする習慣を身につける。 ・授業を中心とした学習と家庭学習を習慣化し、基礎基本の定着を図る。 ・部活動や各種行事を通して広く豊かな人間関係を築く中で、思いやりや感謝の気持ちを育む。 ・何事にも積極的に取り組む中で、学校生活の充実を図る。
2年学年会	明るく落ち着いた規律ある高校生活の充実 計画的な学習と学力の定着 将来の目標を見据えた進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみ、時間・ルールの厳守、行事や部活動への積極的参加、協調性と社会性の育成をはかる。 ・予習→授業→復習のサイクルを定着させ、計画的な家庭学習を習慣化させる。また課外学習への積極的参加を促す。 ・具体的な将来設計と学部学科、受験科目の調べ学習の励行を行う。オープンキャンパスへの参加を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で明るく元気な挨拶や時間・マナー・ルールを守り、社会性や思いやりの心を養う。 ・行事や部活動の柱として積極的に参加するとともに、学習活動も怠らず両立ができる生活ができるように促す。 ・授業をしっかり受けるとともに家庭学習で補う姿勢を養い、自主的・積極的に学習活動ができるように促す。 ・将来設計をしっかりと立てさせ、それに向けた調査と、学習をしっかりと行わせ、進路目標を具体的に設定させるとともに、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。
3年学年会	進路の目標達成への継続した努力 最高学年として模範となる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面接指導と時期に応じた生徒への適切な声掛け ・進路実現に向けた学習指導と学習支援の充実 ・模範となる生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に担任面接を行うとともに、進路相談を行いやすい環境を作る。 ・予習・授業・復習のサイクルの継続を徹底することで授業の充実を図るとともに、平常課外や土曜学習会への積極的な参加を促す。 ・学校行事への積極的参加を通して、協働性を育み、お互いを高め合う集団を目指す。
職員の健康保持 (衛生委員会)	勤務時間の適正な管理 教職員の健康障害防止とメンタルヘルス保持	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙化解消に向けた業務の適性化及び平準化を図る。 ・早めの帰宅とタイムマネジメントの励行 ・愛知県公立学校の教育職員の適切な管理等に基づき、在校時間を客観的に把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌主任、学年主任が適正に仕事を分配し、一部の教員の負担が増えないように配慮する。また、行事や会議等の見直しを図り、業務の削減・軽減に努める。 ・施錠の時間を明確に伝え、一人一人の教員がタイムマネジメントを意識して業務を行うようにする。 ・時間外勤務等時間の上限（1か月45時間、1年360時間）が遵守できるよう業務改善・分担の見直しを行う。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> ①地域の人的・物的資源等を活用した、キャリア教育の充実と職業観の育成 ②生徒用タブレット等の活用推進と生徒の主体的で協働的な学びの充実 ③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫改善 ④交通安全意識と交通マナーの向上、他の人々や地域の安全に貢献できる生徒の育成 ⑤教育相談の充実とスクールカウンセラーや関係機関との連携による生徒支援 ⑥タイムマネジメントの励行による教員の多忙化解消 	

令和4年度の学校評価（反省と課題）

<p>4年度の 重点目標</p>	<p>①社会の動向や教育界の動きを注視し、120年の歴史と伝統を発展させるとともに時代に対応した教育活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解コースの魅力の発信に努め、地域社会や地元中学生に一層の理解を深めてもらう。 ・地域の人的・物的資源等を活用しながら効果的な教育活動を推進する。 ・持続可能な開発目標であるSDGsの視点を踏まえた学びをより一層推進する。 ・学校図書館の活用を通して、主体的、意欲的な読書活動の充実に努める。 <p>②行動力と思いやりを備えた、地域を支えるリーダーとなる生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の一層の充実に努め、グローバル化、情報化などの社会の変化に主体的に対応する能力を育成する。 ・学校行事、部活動やボランティア活動への積極的参加を促し、統率力、協調性、粘り強さ、社会性を備えた人間力豊かな生徒を育てる。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導方法の工夫改善に努める。 ・新しい生活様式を踏まえた衛生管理に努め、学校ならではの学びを最大限確保する。 <p>③清潔で落ち着いた教育環境、安全・安心な学習支援体制を整備し、規律を守る品位・品格ある心身ともに健康な生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命尊重の理念のもと、交通安全意識と交通マナーの向上に努めるとともに、他の人々や地域の安全に貢献できる生徒を育てる。 ・教育相談の充実に努めるとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、組織的かつ迅速に適切な指導及び支援を行う。 ・日常の清掃活動を通して高い衛生・環境意識を醸成する。 ・学校や地域の防災に貢献できる防災リーダーの育成に努める。 <p>④効率的・効果的な業務遂行の機運を醸成し、教職員の多忙化解消を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの活用を一層推進するとともに、情報共有や連絡調整に係る手段をデジタル化するなど、ICTを活用した校務効率化に努める。 ・学習や部活動における生徒の主体性を促し、運営方針を遵守した部活動指導を行い、教職員の業務内容にメリハリを持たせる。 <p>⑤時間外労働の上限の目安時間を次のように定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か月の在校等時間について、時間外労働45時間以内とする。 ・1年間の在校等時間について、時間外労働360時間以内とする。 		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>広報活動 （総務部）</p>	<p>学校や地域の防災力に貢献できる防災リーダー育成の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する知識や防災活動のノウハウを学んだ生徒たちに、校内における普及活動を行う場を設ける。 ・地域の防災活動にも参加し、地域に貢献できる生徒の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」への参加を通して学んだ知識を文化祭等で発表した。全校生徒の防災意識を高め、防災を身近なものとして意識させることができた。 ・来年度以降も継続できるように、関係する行事を工夫していきたい。
<p>学習指導 （教務部）</p>	<p>担任業務の軽減、紙媒体の使用削減のための新学習支援システムの有効活用の研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習支援システム（スクールエンジン）を積極的に活用し、業務軽減を図る。 ・先を見越してスクールエンジンを使用することで、より効率的な運用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習支援システム（スクールエンジン）の活用をきっかけに今までの業務の見直しを図り、今後の活用に伴えマニュアルを作成した。 ・教務だけでなく他の分掌や教科等でも積極的に活用し、相互利用ができるようにしていきたい。
<p>読書指導 （図書部）</p>	<p>資料、情報を活用することで知的好奇心や探究心を満たしてくれる場としての図書館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書会、ブックトーク、教養講座を通じて多様な考え方や知性を磨くとともに、俯瞰して事物を捉える力を身に付けさせる。 ・身近な問題の本質を把握し解決するために、蔵書を検索し活用する能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書会では、文学部の生徒たちによって書かれた作品を読んだ。さまざまなイベントを通じて、論理的思考や知的好奇心、探究心などを刺激することができた。 ・図書委員がおすすめ本の選書を行い、展示を行ったり図書通信で紹介したりするなど、生徒主体で発信することができた。 ・授業の中で積極的に図書室を利用する教科もあり、施設・蔵書などを有効利用することができた。来年度は、更なる利用を促したい。
<p>研修 （研修部）</p>	<p>生徒の1人1台タブレットの効果的な利用法の研究 国際理解教育の推進と国際理解コースの活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後導入される1人1台タブレット等のICT機器について、どのように活用していくかを考察する。 ・3年間を通じた国際理解コースの在り方について考え、それに合わせて行事の精選や内容の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用タブレット等の導入と貸し出しのための事務手続きは、全教員の協力によりスムーズにできた。まだ自宅に持ち帰る生徒は少ないが、授業の中で少しずつ使い始めている。今後はタブレットの活用例を全教員で共有し、有効的な利用方法を模索していきたい。 ・1年生で英語を使った国際活動に慣れ、2年生でリーダーシップを発揮するよう活動内容を変更した。今後は活動の効果的な実施と、生徒各自の進路に関わる学外の活動への参加を推進したい。
<p>生徒指導 （生徒指導部 生活担当）</p>	<p>交通事故の防止と、より一段高い交通安全意識の啓発。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導を実施する。 ・ヒヤリマップ（本校での過去の事故例）を活用した通学路危険箇所マップを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期初めを中心に学校周辺を重点として、立番指導を実施した。 ・新設された通用門の利用における注意を促し、交通事故防止に努めた。しかし、学校休業日などは通用門が閉じており、難問を抱えることとなった。

		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全講話等による啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年ぶりに交通安全講話を実施して、交通マナーの向上に努めた。
生徒指導 (いじめ対策委員会)	いじめの未然防止と早期発見	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート、相談アンケート、学期始めの担任による面接等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期始めの担任面接で、悩み事などの相談に応じた。学校生活アンケートを実施し、いじめの状況把握に努めた。人権講話等で人権の大切さを説いた。 SNS利用での問題が起きないように豊橋警察署による携帯電話マナー講座を実施した。今後もSNS利用でのトラブル防止に努めたい。
生徒会活動 (生徒指導部 特活担当)	生徒会行事の内容検討と生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事の内容検討と綿密な計画を行う 生徒会活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防対策を講じた行事開催方法の検討の継続が必要である。 様々な規制がある中でも、生徒会役員は自主的に活動する場面が多くみられた。 何が必要なのか内容を精選していく必要がある。
進路指導 (進路指導部)	生徒の進路実現に向けた指導の充実部	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、それぞれの時期に合わせた適切な進路指導を学年団と進路部で連携して行う。 高大連携事業やキャリア教育を充実させる。 担任による継続的な面接指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会や進路説明会などを通して、適切な時期に適切な指導を行うことができた。今後は、年度や3年間を見据えた指導の充実を図りたい。 HBCや大学ゼミ体験、大学模擬授業、愛知教育大学への訪問など、例年通り行うことができた。まだコロナ禍ではあるが、来年度はさらなる内容の充実や、ジョブシャドウイングなどを行っていききたい。 テストや模試の結果などを用いて、継続的な面接指導が行えた。
保健活動 教育相談 (保健環境部)	こころとからだの健康保持増進	<ul style="list-style-type: none"> 自らが予防及び新型コロナウイルス感染症予防につながる行動選択をとることができる生徒を育成する。 性教育とがん教育の健康講座を実施する。 ストレスマネジメントを活用したセルフコントロールのできる生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症を予防するため、校内においては手洗いの励行や窓の換気、黙食、マスクの着用が定着してきた。しかし、感染状況を勘案するに、校外の生活においても、校内と同様の予防行動が率先してとれるように生徒の行動意識を高める指導が必要である。 3年生に向けた産婦人科医による講話を通して、妊娠と避妊、多様性、性的同意について男女ともに学び、募集した生徒の素朴な疑問とその回答を用いて性教育に関するスキルを高めた。2年生では新たに「心身の発達」に必要な性に関する正しい基礎知識について助産師の講話を設け、性に関する理解を深めた。また、1年生は看護師による「がん教育」の講話をオンラインにより実施し、健康な生活を送るためのがんに対する正しい知識と理解を深めた。 「こころとからだのセルフチェックシート」を活用し、生徒自身が心と体の健康について振り返りを行うことで、その変化に自ら気付かせて早期に対応させるとともに、校内での面談や相談活動に役立てた。 次年度も継続して、入学から卒業までの3年間を見据えた学校生活へのモチベーションを育成するように努めたい。
1年学年会	東高生としての自覚を持たせ、学習・部活動・行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習と部活動の両立 進路意識の向上 自発的な行動 良好な人間関係の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立している生徒がほとんどである。欠席、遅刻等が多い生徒に対して、今後も面談や声掛けなど丁寧な指導をしていきたい。 多くの生徒が積極的に部活動に参加し、学習との両立を果たしている。隙間時間などを上手に活用している。 類型選択を通して進路指導を含めた面談を行い、ラーニングフェスタ等も利用し大学進学への意識を高めた。 学習や行事など積極的に取り組んでいるが、受け身や指示待ちなどの行動が少なくない。授業や行事において、自発的自主的に行動できるよう指導していきたい。 コロナ禍で様々な制約のある学校生活だが、入学以降、積極的にコミュニケーションを取り、良好な関係を築けるよう努めた。
2年学年会	落ち着いた規律ある高校生活の充実 計画的な学習と学力の定着 将来の目標を踏まえた進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や身だしなみ、時間の厳守、行事や部活動に積極的に参加し目標をもって全力で取り組む姿勢を育む。ICT機器の効果的な活用について自ら考え実践させる。 部活動、学校行事、修学旅行への主体的参加を通し、協働性を高め、良い人間関係を築く。 予習→授業→復習のサイクルを定着させ、計画的な家庭学習を習慣化させる。 将来の人生設計を適切に支援し、高い進路目標が設定 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみや時間の厳守など、規範意識の低い生徒が若干いる。今後も意識を高めていきたい。行事は文化祭や体育大会で中心となって活躍し、部活動でも優秀な結果を残している。また、タブレット端末が各生徒に配布され、授業での活用を推進している。 学校行事では2年生がリーダーとして活躍できた。自ら前に出て盛り上げようとする姿勢が見られた。 学習のサイクルが定着している生徒と、そうでない生徒がいる。忙しい日々の中での時間の使い方を、再確認させたい。 大学調べとともに、実際にオープンキャンパスに参加するなど、進路意識を高めている。今後大学進学 of 志望理由をより明確にさせていきたい。

		させる。	
3年学年会	進路目標達成への たゆみない努力と 実現 たくましく生きる 生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間調査の継続的な実施 面接指導の充実 学習指導の充実 最高学年としての自覚の促進 主体的な行動を促す機会の設置 時期に応じた生徒への適切な声掛け コロナ感染予防対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて、自習室を積極的に活用するなど主体的に学習に取り組んでいる。学習成果も徐々に表れてきているため、家庭での学習も習慣化していると考えられる。 昨年までコロナ禍で行事が縮小されたものもあるが、今年は文化祭も体育大会も声を掛け合いクラスで協力して活動できた。 進路について悩んでいる生徒には個別面談を適宜し、アドバイスをしている。 受験を控えた最高学年として、最後まで努力する気持ちを維持させていきたい。
職員の健康 保持 (衛生委員会)	勤務時間の適正な 管理 教職員の健康障害 防止とメンタルヘル ス保持	<ul style="list-style-type: none"> 多忙化解消に向けた業務の適性化を図る。 学校開錠時間及び施錠時間を遵守する。 愛知県公立学校の教育職員の適切な管理等に基づき、在校時間を客観的に把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌主任による適切な業務分担が行われ、業務の偏りや、多忙感の解消を図ることができた。また、タブレットの活用により、ペーパーレス化とともに業務の精選を図ることができた。 繁忙期においては、やや施錠時間が遅くなる傾向があるが、年間を通じて開錠施錠時間の徹底ができた。 在校時間等の状況記録の結果を活用し、声掛けや業務の適正化を図り、教職員のメンタルヘルスの保持に努めることができた。ただ、特定の教員に時間外勤務時間の上限を超える者がおり、今後の課題である。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であったが、職員生徒ともに健康管理に努め、学校ならではの学びを確保し、行事等できることを最大限に実施することができた。120周年記念行事においては、コロナ感染症対策を講じた上で、歴史と伝統を受け継ぎ盛大に執り行うことができた。 豊橋市の事業と連携しながら、SDGsの視点を踏まえた学びを更に充実させ、意義深い活動を行うことができた。 防災教育に関しては、昨年に続き、代表生徒が「高校生防災セミナー」だけでなく、地元校区の向山夜間防災訓練へ参加し、防災リーダーとしての役割を自覚させることができた。 ニュージーランド短期語学研修については、オンライン研修に変更して実施した。コロナの影響で、3年連続で現地へ行けていない状況である。国内での外国語研修やオンラインでの研修は年が進むにつれ充実したものとなっている。 スクールエンジンの導入による校務の効率化と多忙化解消を図った。今後、システムが定着するまでは初回設定等で多大な労力がかかると予想される。 		